

<総合問題>

総合問題

(総合問題 1)

次の事例を読んで、問題 114 から問題 116 までについて答えなさい。

[事例]

Aさん(66歳, 女性)は, 一人息子と二人で暮らしている。会社の趣味サークルや地域活動に熱心に参加してきた。半年前に, 長年勤めた仕事を定年退職して, 継続雇用で週2日の勤務になった。その頃から不眠を訴え, 疲れやすく気持ちが落ち込む日が増えてきた。しばらくすると, 睡眠中に大声をあげたり, 息子の部屋までふらふらと歩いてきたり, 自室のカーテンの花柄が動いて怖いと話したりするようになった。近隣の大学病院を受診した結果, 手足の震え, 小刻みな歩行, 顔のこわばりなどがみられ, レビー小体型認知症(dementia with Lewy bodies)の診断を受けた。

Aさんは, 趣味活動や自宅で息子と過ごすことを優先し, これからの生活を楽しまたいと考えて, 仕事を辞めた。そして, 安全に歩く力を維持するために介護サービスを活用しようと考えた。Aさんは要支援2の認定を受けて, 介護予防通所リハビリテーションの利用を始めた。

問題 114 Aさんの手足の震えは、ある体内物質の影響によって生じている。

次のうち、その体内物質に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 メラトニン(melatonin)
- 2 ドーパミン(dopamine)
- 3 アドレナリン(adrenaline)
- 4 コルチゾール(cortisol)
- 5 グルカゴン(glucagon)

問題 115 ある日、送迎のときに、介護予防通所リハビリテーション事業所のB介護福祉職は、息子から、日々の症状に変動がある母を自宅で介護をするときにどのようなことに注意すべきか、と聞かれた。B介護福祉職は事業所で多職種ミーティングを行ってから返答することにした。

次の記述のうち、B介護福祉職の息子への助言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 視覚的環境からの影響を防ぐために、自室のカーテンを無地のものに変更する。
- 2 下肢筋力を維持するために、毎日決まった時間に同じ運動をする。
- 3 転倒を防止するために、Aさんの外出の機会を減らす。
- 4 夜間は部屋をできるだけ明るく照らすために、直接照明を用いる。
- 5 着脱をしやすくするために、ボタン止めの衣服を使用する。

問題 116 サービス利用開始から2か月後、担当介護支援専門員(介護福祉士)はモニタリングを行うために、Aさんの自宅を訪れた。Aさんは、「もっとほかの人と交流したいが、自宅で生活しながら利用できるとう安心だ。とにかく息子に心配をかけずに一緒に暮らしていきたい」と語った。

息子は、「最近仕事が忙しくなり、今後泊まりの出張もあるので、リハビリ以外のサービスもうまく使ってほしい」と語った。

次のうち、Aさんに利用を勧めるサービスとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護予防認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)
- 2 日常生活自立支援事業
- 3 訪問介護(ホームヘルプサービス)
- 4 介護予防小規模多機能型居宅介護
- 5 介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービス

(総合問題 2)

次の事例を読んで、問題 117 から問題 119 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Aさん(85歳、女性、要介護1)は、B住居型有料老人ホームで暮らしている。子どもはなく、親族もいない。Aさんは現在、外部の事業所から訪問介護サービスを週2回利用している。Aさんは駐車場を経営していて、毎月その収入がある。

最近、C訪問介護員(ホームヘルパー)は、Aさんの居室内の冷蔵庫の中に同じ食材がたくさん入っていることが多く、気になっていた。ある日、C訪問介護員(ホームヘルパー)がAさんに尋ねると、「近所のスーパーに買い物に行くのが楽しみだが、冷蔵庫の中に何があるのか忘れてしまい、同じものばかり買ってしまう」と答えた。また、「今は、毎月振り込まれる駐車場収入の管理ができていますが、今後管理できなくなるのが不安だ」と話した。その後、Aさんは、初期のアルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)の診断を受けた。

問題 117 次のうち、Aさんが不安に思っている駐車場収入の管理について、訪問介護事業所のサービス提供責任者がAさんに提案する制度として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 成年後見制度
- 2 生活保護制度
- 3 老齢年金制度
- 4 継続雇用制度
- 5 後期高齢者医療制度

C

パ

ー

ト

問題 118 その後、Aさんは認知症(dementia)が進行することを心配し、介護支援専門員(ケアマネジャー)に相談して、同じ市内のD介護付き有料老人ホームに転居することになった。

転居してから2年後、Aさんの認知症(dementia)の症状は進行してきた。Aさんの担当となったE介護福祉職はサービス担当者会議で、「現在、Aさんの、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準は、ランクⅢaと考えられる。そこで、このランクに合った介護計画を立案したい」と提案し、他職種の承諾を得た。

次のうち、Aさんの介護計画立案時にE介護福祉職が意識する、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準Ⅲaに該当する状態として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 日常生活が自立している状態
- 2 見守りがあれば自立できる状態
- 3 日中を中心に意思疎通の困難さがみられ、介護を必要とする状態
- 4 意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする状態
- 5 専門医療の導入が必要な状態

問題 119 D介護付き有料老人ホームに転居してから3年が経過した。Aさんの認知症(dementia)の症状は、さらに進行してきた。D介護付き有料老人ホームでは、施設の方針として、新たにパーソン・センタード・ケアを取り入れることになった。

次の記述のうち、E介護福祉職が介護計画を見直すときの方向性として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 認知症(dementia)の人の共通点に着目したケアマニュアルをつくる。
- 2 認知症(dementia)を治療する。
- 3 認知症(dementia)の人のその人らしさを支える。
- 4 認知症(dementia)の人を特別な存在として保護する。
- 5 行動・心理症状(BPSD)をなくす。

(総合問題 3)

次の事例を読んで、問題 120 から問題 122 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Aさん(42歳, 男性)は, 知的障害がある。父親(72歳)と二人暮らしをしている。半年前, Aさんに血便がみられたため病院を受診したところ, 大腸がん(colorectal cancer)と診断され, S状結腸ストーマを造設した。パウチの交換に支援が必要となり, 退院後は父親が自宅で介護をしていた。父親の介護負担が大きくなったため, 居宅介護(ホームヘルプサービス)を利用することになった。

問題 120 次のうち、Aさんの正常時の便の性状として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 水様から 粥状じゆくじょう
- 2 流動状から液状
- 3 半流動から 粥状じゆくじょう
- 4 泥状から軟便
- 5 軟便から固形状

問題 121 ある日、訪問介護員(ホームヘルパー)にAさんから、「今度、父親と温泉に行くことになったが、便のにおいが気になる」と相談があった。

次のうち、訪問介護員(ホームヘルパー)がAさんに勧める食品として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 チーズ
- 2 たまねぎ
- 3 ヨーグルト
- 4 にら
- 5 アスパラガス

問題 122 ある日、訪問介護員(ホームヘルパー)がAさんの自宅を訪問したところ、

Aさんの父親から、「地震のニュースを見たら、知的障害があり、ストーマの管理が必要な息子に対する災害時の対応が心配になった」と相談があった。訪問介護員(ホームヘルパー)は、相談支援専門員に状況を報告し、相談支援専門員とともにほかの利用者家族に確認したところ、同様に災害時の不安を感じている親が多く、この地域では個別避難計画の作成が遅れていることがわかった。そこで、訪問介護員(ホームヘルパー)はこの課題を地域の課題としてとらえ、サービス提供責任者や相談支援専門員とともに対応することを確認した。

次のうち、この地域課題の検討を働きかける場として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 協議会
- 2 運営適正化委員会
- 3 介護保険審査会
- 4 障害者政策委員会
- 5 地方更生保護委員会

(注) 「協議会」とは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第89条の3第1項に規定するものである。

(総合問題 4)

次の事例を読んで、問題 123 から問題 125 までについて答えなさい。

[事例]

Aさん(50歳, 男性, 障害支援区分4)は, 1年前の交通事故の後遺症で, 右片麻痺^{みぎかたまひ}, 高次脳機能障害(higher brain dysfunction), 失語症(aphasia)となった。現在は障害者支援施設で生活している。日中は, 車いすに座って過ごしているが, すぐに右肩が下がり上半身は右へ傾いた姿勢になる。ある日, B介護福祉職がAさんに姿勢の傾きを直す方法を伝えようとする, Aさんは大声でどなり, 物を投げた。B介護福祉職は, 以前からAさんとのコミュニケーションに悩んでいたため, C介護主任に相談することにした。C介護主任の問いかけに答えるなかで, B介護福祉職は自分自身の言動を振り返ることができ, Aさんに伝わらない焦りと, 子どもに言い聞かせるような口調が, Aさんの感情を害していたことに気づいた。その後, コミュニケーション方法を工夫し, Aさんに姿勢の傾きを直す方法を説明し, 同意を得ることができた。

毎週, Aさんは妻との面会を楽しみにしている。しかし, 妻はAさんの将来に不安を感じて, B介護福祉職に, 「夫の障害について, 情報交換や勉強がしたい。そのようなところがあれば紹介してほしい」と相談した。

問題 123 次のうち、C介護主任がB介護福祉職への対応に用いた手法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーション(consultation)
- 2 コーチング(coaching)
- 3 フォロワーシップ(followership)
- 4 ティーチング(teaching)
- 5 メンバーシップ(membership)

問題 124 B介護福祉職は、Aさんが車いすで良肢位を保つことができるように、クッションを使用することにした。まず、B介護福祉職はAさんの上半身を起こし深く座り直してもらった。

次のうち、B介護福祉職がクッションを挿入する位置として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 背中とバックサポートの間
ひだりだいたいぶ
- 2 左大腿部と座面の間
りょうかたい
- 3 両下腿とレッグサポートの間
みぎだいたいぶ ひだりだいたいぶ
- 4 右大腿部と左大腿部の間
- 5 右上肢と右アームサポートの間

問題 125 妻の相談を受けたB介護福祉職がサービス管理責任者に報告をしたところ、ある社会資源を紹介することになった。

次のうち、B介護福祉職が妻に紹介した社会資源として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 福祉事務所
- 2 公共職業安定所(ハローワーク)
- 3 家族会
- 4 地域包括支援センター
- 5 地域障害者職業センター